



社会福祉法人青森社会福祉振興団

まるめろ通信

【まるめろ通信 / 第 169 号】

特養みちのく荘 ☎ 0175(23)1600
特養金谷みちのく荘 ☎ 0175(23)0781
みちのくクリニック ☎ 0175(23)1171
特養まるめろ ☎ 022(797)0273



●取得認証●
・ISO 9001
・青森県認証介護サービス事業所

私の小径
こみち

地域と共に歩んだ人生 子どもたちの笑顔のために

しらかわ なおと
白川 直人さん

昭和 33 年 3 月生まれ 67 歳 / 函館市港町出身



文部科学大臣賞の表彰状を手に、『これからも子どもたちに学びを伝えたい』と語る直人さん

昭和 33 年 3 月、函館市港町に生まれた直人さんは、戦後の引き上げ者が多く住む港町で育ちました。父は樺太で行商をしており、20歳の時に兵隊として函館に引き上げ、母と共にフェリーふ頭の近くで白川商店を営み、家族を支えました。

「両親とも小学校しか出ていなかったけれど、働きながら勉学に励んで、高圧ガスの販売資格を取得する為に化学で物質の量を計算するのに使われる『モル計算』も覚えた。また父は、町内会長や消防団長も務めて、地域社会のリーダーとして活躍し、勤労等を受賞したこともあるんだよ」と、誇らしげに話します。

直人さんは子供の頃、近隣にある大学の構内を抜けて小学校へ通い、守衛の目を気にしながら通学した事も今では懐かしい思い出です。

生活は決して裕福ではありませんでしたが、自然に囲まれた環境で、夏は海水浴、冬は氷上スケートなど、四季折々の遊びを満喫して育ちました。

高校は函館の工業高校建築科へ進学。高校 3 年生の時、第二次オイルショックの影響により交通費も支給されない厳しい状況の中、東京の企業での現場実習を終えた仲間たちと共に、東北旅行に行きました。宮古では力モメに餌をあげ、盛岡ではわんこそばに挑戦するなど、青春のひと時を今も鮮明に覚えています。

高校を卒業後、八戸工業大学へ進学し、卒業後は青森県内の工業高校で 42 年間教員として勤め、そのうち 30 年はむつ工業高校で勤務しました。

教職の傍ら、地域福祉活動へも参加しており、平成 19 年の開催に向け取り組んでいた「第 20 回スポレクあおもり」では 20 年以上にわたり「ユニースポーツ」の普及活動を進め、その功績により平成 25 年に文部科学大臣より「生涯スポーツ功労賞」を受賞しました。それ以外にも、40 年以上活動している、障がいのある子どもたちへの生涯学習支援として、夏は「ほほえみの集い」、冬は「ふれあいクリスマス会」など、様々な活動に参加してきました。

現在はむつ下北地区レクリエーション協会で会長として活動し、令和 5 年からは「むつ☆かつ」事業にも参加しています。

同年 9 月、むつ☆かつへ行く準備でイスから立ち上がった際に転倒して動けなくなり、救急車で病院へ搬送されそのまま入院しました。積極的にリハビリを行い、約 6 ヶ月後には自宅へと戻ることができました。2024 年 3 月から週 3 回「みちのく金谷リハビリテーションセンター」へ通い、リハビリを続けています。

「今後も月 3 回のむつ☆かつでの活動を継続し、生徒たちに『ルールやマナー、集団生活の楽しさ』を伝えていけるよう、体力づくりを頑張っていきたい。」と楽しそうに語ってくれました。

担当 / 中野渡 真知子

デンマーク・フィンランド 視察調査報告 ③

特別養護老人ホームみちのく荘 施設長 今 友明

【ロウセンゴウ高齢者施設】

この施設は入居施設と高齢者住宅、デイサービスが一体化され、地域の高齢者が住み慣れた環境で安心して暮らし続けられるよう支援する複合的な拠点となっていました。職員数は約 130 名、そのうち 100 名以上が短時間勤務者でありながら全員が正規雇用という点が非常に印象的でした。働く人の希望を尊重した勤務体制が制度として確立されており、労働者の満足度とケアの質の両立が図られていると感じました。ICT の活用も進んでおり、すべての職員がタブレット端末を使って記録業務や情報共有を行っていました。

【デンマーク② 森の幼稚園】

次に訪問した「森の幼稚園」は、自然とのふれあいを通して子どもたちの成長を育む保育の場でした。ほとんどの活動が屋外で行われ、雨や雪の日でも特別な中止はありません。木の枝や石など、自然の素材を使った自由な遊びの中で、創造力や協調性、身体感覚が自然に育まれていく教育が印象的でした。指導者の方は、「大人は必要以上に介入せず、に子供たちが将来にわたって必要になる社会性、協調性の獲得を支援している。幼児教育は計算や読み書きは一切教えず人としての土台作りに専念する時期」と話されていました。

【フィンランドシニアホーム】

フィンランド・ヘルシンキで訪問した「シニアホーム」は、アクティビニアによる自主運営がなされる高齢者住宅で、非常に印象的な取り組みでした。2015 年に設立されたこの住宅には 63 戸があり、共有スペースでは趣味や交流活動が行われています。住民は自ら資金を出し合い、設計や家具選びにも関わるなど「共に暮らしを創る」姿勢が貫かれています。運営には非営利団体「アクティブシニア」が関わっており、行政支援が難しい分野で高齢者自らが理想の暮らしを追求する姿勢に感銘を受けました。

この住まいは、高齢者が自立的に生活し、支え合いながら豊かな老後を送るという理念に基づいています。土地は市の所有、住宅は分譲形式で住民自身が所有しており、公的助成は受けていません。すべて住民自身が資金を出し合い、意思決定にも関わることで、高い主体性が保たれていました。

特筆すべきは、住民が建物の設計や設備選定にも関わっている点です。設計自体は建築家に委託されていますが、共有スペースの家具などの選定は住民自身が意見を出し合って決定しています。

このようなプロセスを通じて、単に「住む」だけでなく、「共に暮らしを創る」という意識が育まれていることが大きな特徴です。

フィンランドでは、こうしたアクティビニアの取り組みが今後さらに広がっていく可能性があり、高齢者福祉の新たな形を示しているように感じました。日本でも高齢者自身が暮らしを構想し、支え合って生きていく仕組みが必要とされており、本事例は重要な示唆を与えてくれるものでした。

今回の視察研修を通じて、北欧では高齢者や子どもたちを一人の尊厳ある個人として尊重し、その人らしい暮らしを支える社会の仕組みが根付いていることを実感しました。高齢者自身が運営に関わる住まいや、自然を活用した幼児教育のあり方は、私たちの地域福祉や教育においても参考となるものでした。得られた知見を今後の実践に活かしていきたいと思っています。



ヘルシンキ、シニアホームでの住居者の方と写真撮影

やさしい街づくりを応援しています。

水産物・青果物・食肉・冷凍食品等の卸売

有限会社
ニッショク
NISSYOKU

青森県むつ市大曲二丁目 13-35
電話 (0175) **22-7222**
FAX (0175) **22-7081**

プロクレアホールディングス
経営のお役に立つ

あおきんリース
十和田支店

〒034-0011 十和田市稲生町 15-1
TEL.0176-22-6801
<http://www.aogin-lease.jp>

お客様へエネルギーの創造と革新を提供し、
経済・社会の発展に努めます。

ENEOS グローブエナジー株式会社
URL <http://eg-energy.jp/>

むつ支店：むつ市南赤川町 10-27
TEL 0175-22-8320

快適な生活環境を目指して

谷川環境衛生開発株式会社
代表取締役 谷川 聡

営業項目

- ・浄化槽保守点検・浄化槽清掃
- ・下水処理施設・排水処理施設維持管理
- ・一般廃棄物収集運搬
- ・排水処理プラント維持管理
- ・排水管・排水処理設備及び側溝清掃
- ・一般廃棄物最終処分場維持管理

創業 昭和 44 年 1 月
所在地 〒035-0051 青森県むつ市新町 41 番 1 号
TEL 0175-22-2659 FAX 0175-22-7783
フリーダイヤル 0120-12-2659
E-mail tanikawa@alpha.ocn.ne.jp

★ 世界に届け!!まるめろ式介護 双葉のベトナム日記

『笑顔が教えてくれる 介護のやりがい』

シンチャオー(ベトナム語でこんにちは)ベトナム・フエは雨季に入り、どんよりとした日が増えてきました。今年は洪水にならない事を願いながら過ごしています。

先日、一緒に働く看護師からこんな質問を受けました。「介護の仕事って大変じゃないの?辞めたくないの?」確かに介護は体力的にも精神的にも大変な仕事ではあります。でもその大変さ以上に、この仕事には『やりがい』を感じる瞬間がたくさんあります。

まるめろ式高齢者介護ホームには、さまざまな状態の方が入居されます。大半が寝たきりで入居されましたが、退居の際には笑顔で自宅に帰られる方が多く、見ていると自然と嬉しい気持ちになります。

日本で仕事していた時もやりがいを感じていましたが、ベトナムに来てからは、利用者が日に日に元気になり、笑顔で帰る姿を間近で見られる機会が増え、『介護の仕事をしていて良かった』と改めて実感しています。



利用者の笑顔にいつも励まされます

ベトナムでの心温まる情報を、ホームページで見ることが出来ます。こちらから簡単アクセス!!



まるめろ フォトスケッチ

ケアハウス「カラオケを楽しむ日」

まるめろフォトスケッチでは、みちのく荘のニュースを写真と一緒にご紹介します。

「カラオケがしたいな」という利用者の何気ない一言から始まった、ケアハウスみちのくグリーンリブの特別イベント。10月11日に「カラオケを楽しむ日」を開催しました。

利用者は、マイクを片手に、懐かしい名曲や青春時代の思い出の歌など歌い、それぞれ思いの曲を披露しました。

音楽の力で心も体もリフレッシュでき、とても素敵な一日となりました。



2025年度 家族介護教室を開催しました

「みちのく在宅介護支援センター」では、2025年6月から10月にかけて、全4回の家族介護教室を開催しました。今年度は、介護の基礎知識や具体的な介護技術、認知症ケア、薬との上手な付き合い方など、幅広いテーマを取り上げ、介護福祉士や薬剤師を講師に招いて講義と実技を行いました。

参加者からは、「おむつ交換の仕方を実際に体験して、苦労していたおむつ交換が楽にできるようになった」「寸劇を交えて、認知症の方への対応を楽しく学ぶことができた」「薬の飲み合わせなど学べて有意義だった」など、どの回も大変好評をいただきました。

今後も、「みちのく在宅介護支援センター」では、高齢者や認知症の方が安心して暮らせる地域づくりを目指し、さまざまな講座を企画・開催してまいります。

来年度も開催を予定しております。実践的で役立つ内容を準備しておりますので、ぜひお気軽にご参加ください。



～地域で支える介護の未来～

インドネシア人材とのパートナーシップ会議

8月21日、仙台市内にてインドネシアと日本の介護人材交流をテーマにした「パートナーシップ会議」を開催しました。会議には当法人から中山理事長らが出席し、インドネシア側からは人材育成機関のワント氏、ウィディ氏、ワワン氏、ロスファ氏が参加。今後の人材育成や受け入れのあり方について、活発に意見を交わしました。

今回の会議には、特別な繋がりもありました。インドネシア側の参加者の皆さんは、約16年前(2008年～2010年採用)に当法人で介護職員として勤務し、介護福祉士の資格を取得したOB・OGの方々です。当時ともに汗を流した仲間が、いま現地で人材育成に携わり、こうして再び協力関係を築けていることに、私たちも大きな喜びを感じています。年月を経ても続くご縁が、国を越えて新たな形で実を結びました。

会議ではまず、インドネシアにおける介護人材育成の現状が紹介されました。日本語の学習に約4ヶ月、介護の基礎研修に1ヶ月、さらに申請手続きに5ヶ月ほどかかることで、研修が基礎的な内容にとどまる課題を共有しました。今後は、採用後も定期的なオンラインミーティングを行い、日本語力の向上や日本人スタッフ・利用者との交流を通して、より実践的な学びにつなげていくことを確認しました。

また、外国人材が地域で安心して暮らせるよう、生活面での支援も大切だという意見が多く挙がりました。買い物サポート、寮や家具家電の準備、一時帰国のための休暇、宗教的な習慣への理解や共同で祈る場の確保など、地域ぐるみで支える体制づくりの必要性が強調されました。さらに、これまでの受け入れ経験から、高卒人材の定着率が比較的高いことも話題となり、現地の教育機関「LPKGEN」において、地元のインドネシア・パティの高校(介護コース)と提携して週1回の日本語授業を実施。卒業後は日本で働きたい若者をサポートする体制を整えています。

会議は終始和やかな雰囲気が進み、時折笑顔や笑い声も交わされました。文化や考え方の違いを尊重し合いながら、「お互いに学び合い、支え合う関係を育てていこう」という思いが自然に共有されました。今回の会議を通して、改めて人と人とのつながりの大切さを実感し、私たちは今後も、インドネシアの皆さんが安心して働き、暮らせる地域づくりに力を注いでまいります。



国をこえて手を取り合い、未来の人材づくりへ
中山理事長(左)とワント氏(右)

～第二田名部小学校～

まちなんけん

金谷みちのく荘へ ようこそ!

10月30日、第二田名部小学校2年生の皆さんが、生活科の校外学習「町たんけん」の一環として、金谷みちのく荘を訪れました。

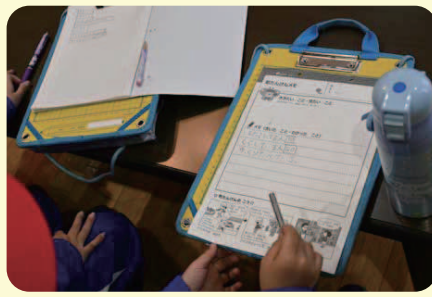
「町たんけん」は、地域のさまざまな施設を見学し、働く人々の様子や地域社会の仕組みについて学ぶ授業です。生徒たちが元気にあいさつを交わしながら、普段は見ることのない施設の浴室や居室、食堂などを見学し、職員の説明に興味津々の様子でした。

また生徒たちから「働いている人は何人いますか?」「利用者さんに食べさせたり飲ませたりするとき、どんなことに気をつけていますか?」などの質問もあり、職員が分かりやすい言葉で丁寧に答えました。

最後には、金谷みちのく荘で最も長寿の利用者さんとの交流もあり、笑顔あふれる温かな時間となりました。

今回の見学を通して、生徒の皆さんが「地域の中で多くの方が支え合って暮らしている」とことを感じ、社会の一員としての意識を育むきっかけになれば嬉しく思います。

金谷みちのく荘では、今後も地域の皆さんと共に学び、つながりを深める活動を積極的に続けてまいります。



生徒たちが説明を受けて書いたメモ

やさしい街づくりを応援しています。



ISO9001 認証を更新しました!

9月に仙台と青森の2拠点で「ISO9001:2015品質マネジメントシステム」の審査が行われ、無事に認証登録を更新いたしました。

最初の認証取得から14年目を迎える今年、法人職員が力を合わせて取り組んできた成果が実を結び、日々の業務改善や品質向上の積み重ねを改めて評価いただきました。特に今年は、AIを活用した業務の効率化という新たな挑戦が高く評価されました。これからも私たちは、全職員が一体となり、より安心・安全で充実したサービスの提供に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

